



2017年(平成29年)9月 113号

CONTENTS

■ トピックス	
・ 薬剤の総量規制が効いてきた！	1
■ 特別寄稿	
・ ジェネリック医薬品 80%時代を迎えて： 一般社団法人 日本保険薬局協会 会長 南野 利久	3
■ 新社長ご紹介	
・ 株式会社ポーラファルマ 代表取締役社長 荒木 徳博	5
■ リレー随想	
・ 「ベトナムの魅力」：日本薬品工業株式会社 代表取締役社長 嶋田 隆	6
■ 委員会活動報告	
・ 常設委員会活動のご紹介【環境委員会】	8
■ 賛助会員から	
・ 株式会社畑鐵工所	11
■ 新工場ご案内	
・ 共和薬品工業株式会社 鳥取工場	14
■ お知らせ	
・ 協会 Web サイトリニューアルのご案内	15
・ くすり相談委員会全体研修会の開催	16
・ 9月のイベント参加予定	
第 59 回全日本病院学会 in 石川	17
第 48 回日本看護学会・在宅看護・学術集会	18
■ 知っ得!豆知識「ジェネリック医薬品情報提供システム」について	19
■ COP便り「災害時における医療機関等への支援活動」	23
■ 活動案内	24
■ 編集後記	25

## トピックス



## 薬剤の総量規制が効いてきた!

「夢ある改定のはずが、厳しい改定とならざるを得ない」。中医協の支払側委員を務める日本労働組合総連合会の平川則男総合政策局長は8月29日のUAゼンセン製造産業部門主催のシンポジウムで、こう語った。

政府は2018年度予算編成の前提となる社会保障関係費の自然増を6300億円規模と試算し、うち1300億円を薬価改定や診療報酬改定などで5000億円程度に圧縮する方針を打ち出している。ちなみに前回16年度改定は1700億円を薬価引き下げなどで圧縮した。これに比べりゃ圧縮額も今回は小さい!と安心するのはまだ早い。実は、子育て支援などの充実項目がこれに上乗せされ、これにより圧縮額は1300億円を大幅に上回るとの観測が出始めているためだ。

我々医療界にとって18年度に行う改革と言え、診療報酬・介護報酬の同時改定が思い浮かぶ。しかし、意外に忘れられているのが同じタイミングで行う障害福祉サービス等報酬改定だ。いわば、医療・介護・福祉が一体となった“トリプル改定”となる。人口の高齢化や地域経済の活性化、加えて、地域住民の健康、医療、福祉に関する行政サービスの充実などが絡み合うなかで、社会保障制度を持続的、安定的に運営するのに必要な財源確保もこれまで以上に重要な意味を持つ。

その財源捻出の“打ち出の小槌”と皮肉られるのが、薬価・薬剤費ということになる。経口C型肝炎治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など、高額薬剤の薬価を大幅に引き下げたことは記憶に新しいところだ。

加えて、前回2016年度診療報酬改定では、残薬やポリファーマシーへの対応として、薬剤の総量規制に関するインセンティブが導入された。実際、調剤医療費の動向(調剤MEDIAS16年11月分まで)を検証すると、明らかに総量規制の影響が出ていることが分かる。一方、協会けんぽの事業報告をみても、16年度の薬剤料は前年度比マイナス4.9%とマイナスに転じていた。経口C型肝炎治療薬など革新的新薬の登場で15年度の薬剤費は大きく伸長したが、これをピークに薬剤料の伸びは鈍化し、今後マイナス成長に転じるとの見方も強まっているのだ。

これまでの医療費抑制策は、後発医薬品の数量シェア80%目標などがメニュー

にあがっていた。しかし単年度予算のインパクトでは、特例拡大再算定を含む市場拡大再算定による薬価引き下げの果たす役割が大きかった。ところが16年度改定後のマーケットをみると、これまでの様相と異なり、残薬対策や剤数制限などの薬剤使用に関する総量規制がジワリ効いていることが分かる。

では、そろそろ18年度改定に目を向けてみたい。次期改定論議は今秋から本格化する。製薬業界も9月中旬に予定する業界ヒアリングを備え、準備に余念がない。ところが厚労省側はさらなる医療費適正化の秘策を繰り出す方針だ。実診療データを可視化(見える化)し、“隣の芝生はキレイ!”的なベンチマーク作戦を密かに狙っている。

2018年度には、保険者への権限移譲を伴う国保改革が行われる。こうした施策を支える新たな視点がデータヘルス改革だ。DPC データやレセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)やNCDに代表されるデータの見える化だ。特に包括払いのDPC病院などでは、薬剤の見える化が進むことで不必要な投薬が排除される可能性が高い。DPC病院は地域の中核病院が数多く含まれており、エリアでのデータ共有が進む中で、ひとたびDPC病院が決定すれば、エリアにも一気に波及することが想定される。医療従事者、そして患者から医薬品の価値を真に評価されなければ、エリアの中で生き残ることは難しい。これは、新薬メーカーだけでなく、後発医薬品メーカーにも当然、求められることになる。薬価を切り下げてシェアだけを奪うようなビジネスモデルは通じない時代となりつつある。ジェネリック医薬品産業ビジョンでは、ジェネリック80%時代の先を見据え、臨床試験を伴う研究開発受託型企業や、製造受託型企業など新たな姿を打ち出した。80%時代が迫る中で、いまジェネリックメーカーは岐路に立たされていると言える。

Monthly ミクス編集部

望月 英梨



## 特別寄稿

## ジェネリック医薬品 80%時代を迎えて

一般社団法人 日本保険薬局協会  
会長 南野 利久  
株式会社メディカルー光

日頃は日本保険薬局協会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当協会は保険薬局を運営する企業が中心となり、社会の中で必要とされる保険薬局の在り方を追求し、国民の利益と健康に貢献することを目的として活動を行っております。

調剤薬局とジェネリック医薬品には強固なつながりがあると考えています。調剤薬局の成長変遷を辿ると、1985年頃～94年頃が黎明期であり、10%に満たなかった医薬分業率が少しずつ伸長していった時代です。分業率20%に達した95年から2000年代前半は、毎年プラス数パーセント増加し飛躍的に分業が進んだ成長期でした。2010年頃以降は調剤薬局という業態も社会に根付き、分業率の伸長も小幅になっていった成熟期であると私は受け止めています。

医薬分業が進むにつれて、その軌跡にオーバーラップするようにジェネリック医薬品の使用率も上がっていきました。小泉政権下の制度改革で、処方箋を発行する医師やそれを受ける保険薬局にインセンティブが導入されたことが端緒でしたが、同時期に自己負担率が引き上げられたこともあり、経済的な負担軽減を求める患者さん自身の意見も取り入れる形で、ジェネリック医薬品の市場が拡大していきました。

超高齢社会のさらなる進展に従い、ジェネリック医薬品は国民医療にとって非常に重要な役割を託されており、市場は将来的にもますますの成長が予想されます。一昨年の政府方針には、後発医薬品のシェア80%の達成時期として「2018年度から2020年度末までの間のなるべく早い時期」という一文が盛り込まれていましたが、今年度はそれが2020年9月と具体化されました。この号の発行からちょうど3年後ということになります。

ジェネリック医薬品の認知度が向上するにつれて、保険薬局においても患者さ



んのニーズが高まっていることを実感しています。今では、薬局を訪れる患者さんから「この薬のジェネリックはあるか」「薬代はどのくらい変わるのか」といった問い合わせや、変更のご希望を受けることも珍しくなくなりました。また、新薬と効き目が同等でより安価であるだけでなく、貴協会会員各社におかれては、薬の味やにおい、剤形を飲みやすく改善したり、容器包装の開けやすさを改良したりと、患者目線に立ったさまざまな工夫を凝らし、製剤の改良を重ねておられます。こうした工夫が広がることで、さらにニーズや信頼性が高まっていくと期待をいただいております。

保険薬局でも、ジェネリック医薬品の使用促進や在庫の拡充は、主要課題の一つとして注力しております。日々の情報収集を欠かさず、求められる医薬品の在庫を揃えることで、患者さんの期待や時代の要請に応えていかななくてはなりません。製薬会社の方々からも、情報発信や商品の説明会など、今後とも薬局に向けた側面的な支援を期待しております。

昨今は高額な新薬の登場を契機として薬価問題が注目を集めております。安価な薬は財政面から見れば利点ばかりがあるようですが、先日、お付き合いのある開業医の先生から「良く効く薬が、薬価が下がりすぎたせいで採算が取れず製造されなくなってしまった」という話を伺いました。一方で、長い間処方されていた先発品が、効果がないとして薬価から外された例もあります。ただただ安くなるのが国民の為になるとは限らないということです。先に挙げたような医師からの声を受けいれ、ニーズのある薬はぜひ製造を続けていただくと同時に、良い薬、必要とされる薬を国民の為に残せるような制度設計を求めていかななくてはならないと考えます。

国民の健康に貢献するという大きな使命を共有する団体として、患者さんにリーズナブルでより良い医療を提供するため、当協会も手を携えてまいりたいと思っております。

以上



## 新社長ご紹介

株式会社ポーラファルマ  
代表取締役社長 荒木 徳博

本年6月1日より代表取締役社長に就任致しました荒木徳博です。

ポーラファルマは、ポーラ化成工業株式会社から医薬事業を分離し、株式会社科薬の販売部門と統合することで、新たな医療用医薬品企業として2007年4月に創業しました。私たちは、事業ターゲットを「皮膚に特化した医療用医薬品企業」に設定しており、「ポーラ」の85年間の研究開発で培った、皮膚科学研究、外用製剤研究の成果を活用し、皮膚という分野において、存在価値の高い企業となることを目指しております。

皮膚疾患の大きな特徴の一つに「目に見えること」があります。痛みやかゆみの症状に苦しむのみならず、「恥ずかしい、人前に出たくない」と日常的な活動に影響することも少なくありません。私たちは、皮膚疾患における未充足な医療ニーズ、人々の苦痛を的確に捉え、化粧品企業を母体とする強みを生かして、疾患治療への貢献はもちろんのこと、治療の過程における患者さんへのケアを通して、人々がより活動的で、健やかに、美しくありたいことに貢献していきたいと考えております。

今後ともお客さま、取引先、社会や地域、など、ステークホルダーとコミュニケーションを積極的にとりながら、新たな価値を創出し、社会から信頼され必要とされる企業づくりに全力で取り組んでまいります。





## リレー随想

## ベトナムの魅力

日本薬品工業株式会社  
代表取締役社長 嶋田 隆

リレー随想到稿するのも今回で4回目となり、時の流れの速さを実感しております。

これまでの3回は、私の郷里である北海道・網走市を紹介させていただきました。網走は知床半島の入口にあたる北海道北東部に位置しており、人口約3.7万人の市です。流水でも有名なオホーツク海と根室海峡に挟まれた知床半島は、2005年に世界自然遺産に登録されました。歌手・加藤登紀子さんの名曲「知床旅情」にも歌われた知床岬があり、自然の偉大さや奥深さ、美しさも厳しさも丸ごと体感できる野生の聖地とされています。

私の郷里・網走や知床のご紹介もこれが最後となりますが、北海道旅行の機会には是非、雄大な最果ての地へ足を運んでいただければと思います。



さて、話は変わりますが、我々日本ケミファグループは、ベトナムのホーチミン市郊外にある工業団地内に今年3月、新工場を建設いたしました。そのため、最近ではベトナムに行く機会が増えており、その度にベトナムの魅力を強く感じております。私の観点からベトナムについて簡単にご紹介させていただきます。

ベトナムの正式名称は「ベトナム社会主義共和国」。首都はハノイで、公用語はベトナム語です。人口は約9000万人で年々増加しているそうです。ベトナムを訪れてみて、若者が多く、活気のある国だと感じました。現在の平均年齢は28歳とのことで、街中であまり高齢者を見かけない印象です。平均年齢46.4歳(2015年、総務省統計局)で少子高齢化が進む日本とは正反対の人口構成に驚きました。

首都はハノイですが、人口はホーチミンの方が約100万人多く、現在高度成長期にあるベトナム経済を牽引しています。また、近年は急激な経済成長、交通量の増加等により大気汚染が深刻化しているようです。

かつてフランスの統治下にあったホーチミンには「コロニアル建築」という様式で造られた歴史的建造物が多く残されています。1886年に造られた中央郵便局、フランス統治時代に建築された市民劇場、パリの面影を残したコンチネンタルホテルなどが代表的ですが、街を歩いていると小さなお店でも様々な特徴があり、我々の目を楽しませてくれます。特に、1914年設立と歴史あるベントイン市場は時計台の形をした入口があり、この中に地元の青果物、珍しい食品、衣類、服飾品など、1000以上のお店が集まり、人々の生活がそのままぎっしり詰まっています。夕方以降はこの市場の周辺に屋台が並ぶ夜市となり、さらに賑わいを増します。

また、ベトナムといえば食べ物も魅力的です。日本でもよく食べられている、米粉麺のフォーや、生春巻きなどのベトナム料理のほかにも、フランスパンにレバーパテを塗り、ハムや野菜の甘酢漬けを挟んだベトナム風サンドの「バイン・ミー」、米粉の皮に豚肉や海老、野菜が入ったお好み焼き「バイン・セオ」、鶏肉のお粥にちぎった揚げパンを入れて食べる朝ごはんの定番「チャオ・ガー」などがあります。さらに、練乳が入った濃厚な味わいのベトナムコーヒー、フルーツや小豆などが入ったぜんざいのような「チェー」など、デザートやドリンクも独特のものが数多くあるようです。

国内各地に地ビールがあるベトナムは、お酒の時間も独特です。「モッ、ハイ、バー、ヨ〜！」が日本の乾杯のような掛け声ですが、遅れて人が来たら乾杯、目が合ったら乾杯、と、ベトナムの方は乾杯を何度も繰り返します。ですので、現地の方とお酒を共にする場合は飲みすぎに注意してください。

仕事柄ベトナム人の方と交流する機会がありますが、皆さん勤勉で向上心が旺盛です。また、朗らかで笑顔の方が多く、日本人も親しみやすい人柄だと感じました。

以上、今回ご紹介させていただいた通り、親しみやすい国民性、独特で魅力的な街並みや文化が存在するベトナムは、一度訪れると魅了され、より深く知りたい、と感じる場所です。東南アジア諸国は発展が目覚しく、どの国も興味深いかとは思いますが、是非一度、ベトナムを訪れてみてください。





## 常設委員会活動のご紹介

### 環境委員会

環境委員会委員長を務めさせていただいておりますニプロファーマの前田でございます。

環境委員会活動について報告をさせていただきます。

現在、会員会社 42 社から 17 名の委員メンバーで構成されており、委員会は年 4 回程度開催し、その他経団連および外部団体の研修会等にも参加交流をしています。

#### ◆ 日本製薬団体連合会との連携

日薬連環境委員会と活動を連携し、経団連が主導する環境自主行動計画である地球温暖化対策ならびに省資源・廃棄物対策を主体に取り組み活動をしており、厚生労働省や経団連を始めとする外部業界団体や協議会も含めて環境保全活動に取り組んでいます。

最近の活動状況は以下のとおりです。

#### 1. 地球温暖化対策

「温暖化対策の流れ」

- ステップⅠ 省エネルギー社会 ～ 2010 年
  - ・化石燃料に依存
  - ・経済成長が主、環境社会はブラウン経済
- ステップⅡ 低炭素社会 ～ 2030 年
  - ・再生可能エネルギー導入、インフラ整備等
  - ・グリーン経済への移行期(経済・環境・社会)
- ステップⅢ 脱炭素社会 ～ 2050 年
  - ・脱炭素社会構築
  - ・グリーン経済の確立

経団連が示す自主行動計画として日薬連傘下団体として、平成 20 年度から環境自

主行動計画フォローアップ調査に毎年参加をしています。

2013年度からは、従来の自主行動計画から低炭素社会実行計画に移行し、環境委員会として「2020年度二酸化炭素排出量を、2005年度排出量を基準に売上高原単位で23%削減する」を目標に掲げ、引き続きフォローアップ調査にも継続参加し、その後厚生労働省および経団連によるヒアリング検証が行われるなど、計画達成に向けた積極的な取り組みが期待されております。

今後、数量シェア80%およびロードマップ促進における今後のエネルギー需要として、ますます増加の一途も予想され、ならびに生産効率改善も併せて、引き続き努力をいたしております。

## 2. 省資源・廃棄物対策

### 「省資源・廃棄物対策の流れ」

- 2007年 環境自主行動計画 / 循環型社会形成編へ改編  
第二次目標「2010年度最終処分量 1990年度実績 86%減」
- 2010年 第三次目標「2015年度最終処分量 2000年度実績 65%程度減」
- 2016年 名称を「循環型社会形成自主行動計画」に変更して継続  
第5期自主行動計画
- 2020年 廃棄物再資源化率 55%以上

医薬品業界は、数量シェア80%を目指すために生産エネルギー同様に年々増大するとともに廃棄物発生量も2010年以降増加傾向にあります。

一方で、最終処分量も拡大傾向にあり環境委員会も日薬連と連携し、フォローアップ調査に平成19年から参加しており、会員会社皆様のご協力もあって昨年度に引続きアンケート調査100%回収を達成いたしました。年々さらに増え続けるものと予想もされている中、資源の限られた日本国において循環型社会形成は重要な課題であり、一層3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進を進めるべく努力をしています。

その他、医療系廃棄物対策などの製薬事業固有の課題や生物多様性への取り組みなどの環境課題の重要性が増してきており、こうした課題に対する社会的な要請にも積極的に社会的責任を果たしてまいります。

### 3. ワーキンググループ設置

2014年度から環境委員会内に、地球温暖化対策および省資源・廃棄物専門のワーキンググループを設置し、年度アンケート調査の回収、集計、分析、年間報告書の作成を中心となってフォローアップ作業を行っています。

### 4. 情報共有

経団連または厚労省など環境関連の定例会ならびに研修会など、適宜参画し、その情報を各委員会へ報告いたしました。さらに環境委員会内で外部協力会社による省エネ講座等も開催し、幅広く知識研鑽に務めております。

### 5. 啓発活動

毎年の推進キャンペーン活動として、環境ポスターに掲載する「キャッチコピー」を各会員会社から公募し、環境ポスターを各会員会社に配布して、環境問題への取り組みアピールをしています。

以上のように、環境委員会は、今後も諸団体と連携し環境関連を取り巻く課題に積極的に取り組んで参ります。

今後とも、環境委員会の活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

環境委員会委員長 前田 淳 (ニプロファーマ)



## 株式会社畑鐵工所

JGA 会員の皆さま、こんにちは。賛助会員にご承認頂きました株式会社畑鐵工所です。

弊社は 1924 年の創業以来、90 有余年歩んで参りました。その大半を粉体成型の技術発展に費やし「打錠機の HATA」と呼ばれる高い評価を頂き、製薬・食品・電池・原子燃料等あらゆる粉体の圧縮成型に携わり、特にジェネリック製薬業界に於いては、ユーザー様のニーズを具現化する為、弛まぬ技術・製品開発を行っております。

現在弊社では、粉体成型の歴史に於いて、高品質・少量多品種・無人化、そして FA 化へと移行して行く中で、IoT やデータインテグリティ等にも対応した機能・制御・システムの研究開発を続けております。

### ●活動拠点

弊社は京都・東京・ベトナム（ホーチミン）の3つの営業拠点により、日本国内のみならず中国・韓国・台湾・A S E A N市場へのサービスを展開。また提携会社の米国 Elizabeth 社より欧米市場へも展開し、グローバルネットワークの拡充を図っております。

更にお客様の種々なご要望にお応えするべく、各拠点とも技術員を常駐させ、迅速且つ柔軟なメンテナンス体制にも強みを持っております。

なお2016年にはベトナムに生産工場を設立。成長著しいA S E A N市場のニーズに最適な製品を提供させて頂くと共に、「高性能・高品質な製品を安価に」を目標に、日々努力を重ねております。

### ●エンジニアリング機能

打錠機メーカーとして「あらゆる粉体を形にする」をモットーに、ユーザー様の声を基に皆様と共に具現化して参りました。

仕様作りから製作・検査・引渡完了までのプロセスを一貫して管理する事を基軸とし、昨今では医薬品製造業の変革を受け、仕様提案も高機能自動化設備のカスタマイズ提案から、生産効率の向上、最適化を目指す為の組合せ提案にシフトしており、装

置メーカーの立場であっても、医薬品製造の本質に関して更に理解を深める事も使命と捉えています。

その様な背景から、これまでの活動よりも一歩踏み込んだ、技術開発(研究)等のサポートや、お客様の問題解決に携わらせて頂く事も多く、お客様との技術的なコミュニケーションを密にする事で、「お客様の安心・満足」をご提供させて頂くためのエンジニアリング業務を行っております。

### ●製造機能

自社製品である打錠機・造粒機や、粉砕機・混合機等のプロセス装置だけでなく、無人化や自動水洗化に必要な付帯機器との連結に至るまでの一貫した

製造・管理を行っております。この製造機能により、新しい技術探索・基礎実験に必要なモック製作についても、比較的安価で迅速な実験データの取得が可能となります。またモノづくりだけでなく開発業務から携わっていく事で、豊富な経験と幅広い知識を兼ね備えており、常に新しい課題に取り組み、更なる機能向上を目指しています。

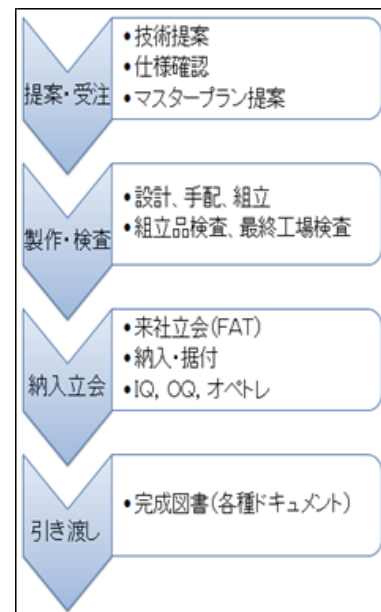
### ●メンテナンス機能

引渡完了後もアフターサービスの重要性を理解し、突発的なトラブルからの早期復旧、定期点検を通じたトラブルの未然防止のご提案等、ハードウェアのみならず運用面の改善提案なども見据えた技術強化を目指しています。

現在も弊社装置は数多くのお客様に未長くご使用頂いており、納入から半世紀近く現役で稼働している装置も多数存在している事を誇りに思い、昨今では更なる早期対応を求められている背景も踏まえ、メンテナンス体制や技術的知識の強化を図り、更なるアフターサービスの向上を目指しています。

### ●商社機能

弊社営業部門であるS & M事業部(セールス&マーケティング)は、インド Parle Eliza beth 社をはじめとする優れた海外商品を日本市場へ、H A T A 打錠機等の優れた



エンジニアリングフロー

日本製品を海外市場へ、双方向に展開する商社機能を有したハブ窓口として、日々グローバルな営業活動を展開しており、メーカー・商社の両面を融合したトータルソリューション提案を進めております。

そしてHATAは今、これからの生産工場の有り方について考えています。人と機械が調和した人に優しい工場作りをイメージし、お客様の未来の夢工場建設にいかに寄与するかをテーマとして取り組んで参ります。その為にも勇敢に、前向きに、怠る事のない研究と惜しみない開発努力を、これまでに蓄えた豊富な経験と技術を生かし、ジェネリック製薬業界の更なる発展に努めて参ります。

## 新工場ご案内



## 共和薬品工業株式会社 鳥取工場

2017年3月末日、鳥取市南吉方3丁目(旧三洋電機跡地)に敷地面積約20,000㎡、延床面積約7,546㎡の鉄骨3階建ての鳥取工場を竣工しました。当工場は内服固形製剤の製剤工程及び包装工程を有する工場で、一貫製造と主としてLupin社から輸入したバルク製剤品の選別工程以降の製造工程を行います。



鳥取工場 外観

工場設計においては、既存工場である三田工場との生産補完を容易とする機械設備を導入すること、フロービン混合機を用いることで容器への粉末排出を出来るだけ最小限にすると共に、フロービン自動搬送システムを採用し、人と物の動線を分離することで異物混入や交差汚染の防止に努めています。また省エネ対策を図ることを目指し、電気設備デマンド監視システムを採用しています。

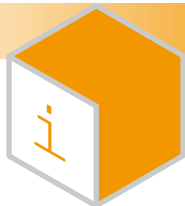
工場稼働については、2017年7月より個々の製品のバリデーションを開始し、秋頃より一部製品の出荷を目指しております。その後2018年度からは本格生産へ移行し、年間で10億錠程度の生産数量を確保する計画です。なお当工場の最大稼働時の生産能力は年間20億錠を見込みます。



混合室



印刷室



## お知らせ

## 協会Webサイトリニューアルのご案内 (2017年9月20日)

日本ジェネリック製薬協会は、国内数量シェア 80%とその先の時代へ向けて、さらに皆様にご満足いただける充実した情報提供体制を整えるため、協会Webサイトをリニューアルいたします。新コンテンツ等も設置されますので、ぜひ引き続きご利用いただけますと幸いです。

リニューアルサイト開始予定日：2017年9月20日(水)

### < 3つの改善ポイント >

1. ユーザビリティ※強化

2. コンテンツ強化

3. アクセシビリティ※強化

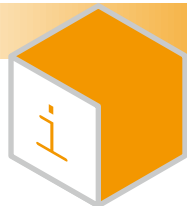
※ユーザビリティとは、ユーザーの使い易さなどを意味します。

※アクセシビリティ強化とは、Web サイト上でのバリアフリー対応です。「高齢者や心身の機能に制約のある方でも、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること」を意味します。

<イメージ>







## お知らせ

## くすり相談委員会全体研修会の開催

- 
1. 日 時：平成29年10月6日(金) 13:30より
  2. 場 所：ベルサール八重洲 「ルームD+E」  
東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル 2階

## 3. プログラム

講演Ⅰ)：「ジェネリック医薬品に対する現状と今後の課題

－ 現場の薬剤師の視点より－」

講師 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事

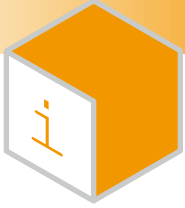
公益社団法人東京都薬剤師会 副会長 **永田 泰造 先生**

講演Ⅱ)：「お薬相談外来と医薬品情報提供」

講師 鈴鹿医療科学大学 薬学部 病態・治療学分野

臨床薬理学研究室 教授 **大井 一弥 先生**

- ※ 本研修会は、当協会会員会社は全員参加可能です。
- ※ 参加ご希望の方は会員各社の庶務担当者、技術担当者にお送りしております参加申込書にて、9月29日までにお申込下さい。なお、各社くすり相談委員を通したの申込も可能です。

**お知らせ****9月のイベント参加予定****第59回全日本病院学会 in 石川**

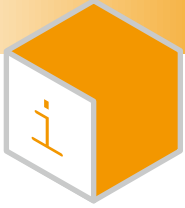
【医師向け/展示】

開催日：平成29年9月9日(土)～10日(日)

場所：石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、ANAクラウンプラザホテル金沢、  
金沢市アートホール

趣旨：「大変革前夜に挑め！～今こそ生きるをデザインせよ～」をテーマに開催される本学会は、日本の未来・医療人の未来を豊かなものとするために、多くの会員病院と医療関係者の皆様が一堂に会して、我が国の医療の真にあるべき姿、その方向性について議論を交わし、地域医療に携わる全ての方々が明るく希望の持てる未来を共に考えていくことを目的としています。

当協会はブースを出展し、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明することとしています。



## お知らせ

## 9月のイベント参加予定

## 第48回日本看護学会・在宅看護・学術集会

【看護師向け／展示】

開催日：平成29年9月14日(木)～15日(金)

場所：つくば国際会議場(エポカルつくば)

趣旨：「選ばれる在宅看護の実現！～一歩ふみ出そう！切れ目のないケアを目指して～」をテーマに開催される本学会は、2025年を見据えて在宅看護の重要性が高まっている中であって、在宅看護の価値を問い直すことが重要であり、改めて在宅看護の価値について、行政や在宅看護の現場での豊富な知識と経験を踏まえて講師よりご講演頂き、看護職として他職種との有機的な連携を推進していくための方法等について考える機会としています。

当協会はブースを出展し、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、ジェネリック医薬品情報提供システムのご紹介、当協会の取り組みなどを説明することとしています。



## 「ジェネリック医薬品情報提供システム」について

本日紹介する「ジェネリック医薬品情報提供システム」は、日本ジェネリック製薬協会（以下 GE 薬協）が運営する IT を活用したジェネリック医薬品の情報提供システムです。このシステムは医療関係者や一般・患者と会員企業をネットで結び、必要な情報を迅速に提供いたします。

システムを開発した背景には、ジェネリック医薬品の情報を一元的に管理・提供することが望まれていたこと、医療関係者がネットで情報収集する割合が増えてきていたことがあります。また MR の少ない GE 企業の情報提供体制を補完できるということもあり、ジェネリック医薬品の新しい情報提供手段として IT を活用した情報提供のシステム開発に着手し、平成 22 年 4 月から運用を開始しています。



### システムの特徴、機能等

#### (1) システムの特徴

本システムは、医療関係者や一般の方が必要とする情報を GE 薬協のサイトを通じて適宜、迅速に提供するもので、特徴は次の通りです。

- ・医療関係者は、個別企業にアクセスしなくても、このシステムを窓口として、複数の医薬品を複数の企業に一括して資料請求し、迅速に資料を収集することができます。
- ・GE 薬協のサイトに大きなデータベースを必要としません（提供すべき情報は会員各社が常に最新情報を用意しています）。
- ・ジェネリック医薬品企業は、このシステムを活用することにより、情報提供能力を補完し、医療関係者が求める情報を適時、的確に提供することが可能となります。

## (2) システムの内容と機能

本システムには「医療関係者向け」と「一般向け」のシステムがあり、それぞれ次の機能があります。

### ◎医療関係者向けシステム

医療関係者向けのシステムには、「文献検索システム」と「情報提供システム」があり、医療関係者に有用な情報をスピーディーに提供することを目的としています。

#### 1) 文献検索システム

GE 薬協信頼性向上プロジェクト文献調査チームが収集、評価を行っている文献、学会報告の要旨が検索できます。

#### 2) 情報提供システム

##### ①ジェネリック医薬品検索機能

検索は一般名、先発医薬品名、ジェネリック医薬品名のすべてに対応し、剤型、配合剤等を特定した複合検索も可能です。新たに「販売会社」の絞り込みや「薬価順」の並び替え機能も追加しました。

検索結果は上段に先発医薬品、下段にジェネリック医薬品が表示されます。一覧では「製品名」「薬価」「効能の差」「経過措置期限」等が確認でき（「効能の差」はポップアップで具体的な効能効果・用法用量の違いが表示されます）、会員企業の製品については、この画面から「品質情報概要」「添付文書」「インタビューフォーム」を直接ダウンロードすることが出来ます。

また、一覧から各社の製品情報提供ページにジャンプして、より詳しい情報を確認することも可能です。

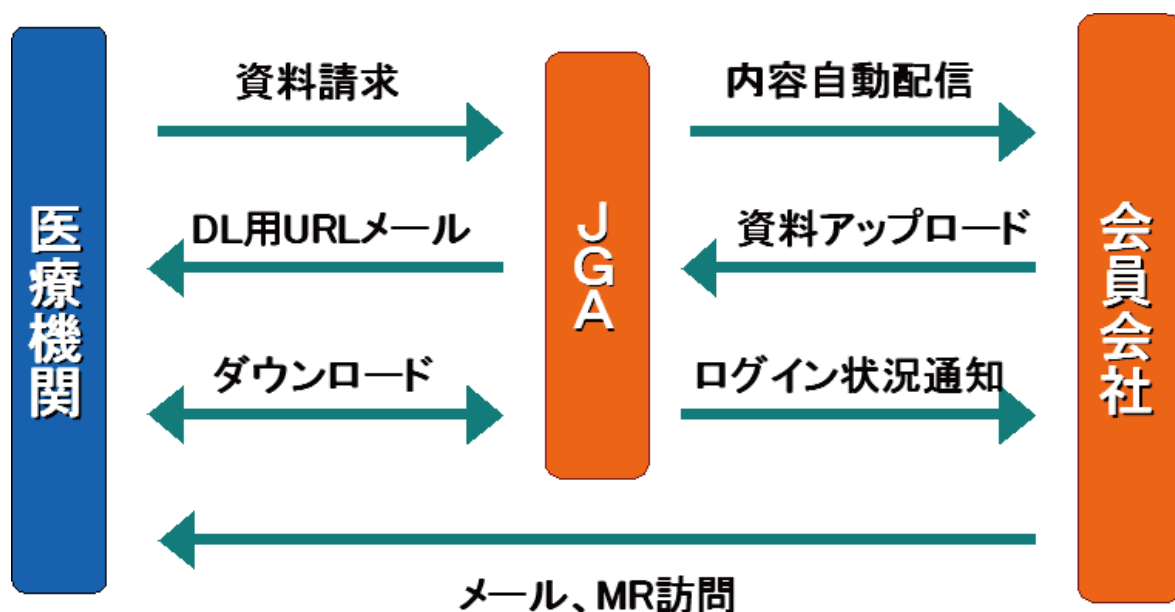
## ②資料請求機能

①の検索画面でチェックした製品は、複数の企業に同時に資料請求することができます。請求する資料は「添付文書」、「インタビューフォーム」、「生物学的同等性試験」、「溶出試験」、「安定性試験」が選択でき、一覧にない資料については自由記述欄を用意しています。

請求情報は即座に会員企業に送信され、各企業が資料をシステムにアップロードすると、請求者に案内メールが届き、ダウンロード可能な状態となります（郵送も可）。

従来、医療関係者がそれぞれの企業に連絡し、MRが資料を持参していた方法に比べ、はるかに迅速な情報提供が可能となっています（図2）。また資料は電子媒体ですので、そのままPCに保存・管理できます。

※資料請求には会員登録が必要です。また、原則として医療関係者以外の資料請求には対応しておりません。



## ③製品選択型負担差額計算機能

①のジェネリック医薬品検索の要領で検索した特定の製品に対して、複数の組み合わせで薬剤費、患者負担額（1割・3割）、ジェネリック医薬品に変更した場合の患者負担差額（1割・3割）を即座に計算して表示・印刷ができます。

#### ④お問い合わせ機能

GE 薬協会員企業の一覧から各社の「問い合わせ」ページにジャンプ、もしくはメーカーが起動し、直接会員企業に各種の問い合わせをすることができます。

※新たに会員企業の製品情報ページへのリンクボタンも設けています。

#### ◎一般向けシステム「かんたん差額計算」

患者さんが処方されているお薬にジェネリック医薬品があるかどうかの確認や、ジェネリック医薬品に変更した際の差額が計算できます（複数の組み合わせに対応）。

※後発品に複数の薬価がある場合には差額の範囲で表示されます。

以上が当協会の運営する「ジェネリック医薬品情報提供システム」の概要です。既に利用されている先生方からは高評価をいただいておりますが、まだ使用したことがない方には一度このシステムの便利な機能を試していただきたいと思っております。

このシステムは会員登録をしなくても、様々な便利な機能を使うことができます。検索結果から薬価の確認はもちろん、先発医薬品との「効能・効果」、「用法・容量」の違いが簡単に確認できますし、直接ダウンロードできる「品質情報概要」を活用して、標準品との添加物の違いや同等性試験結果など、医師、患者さんに情報提供することができます。

医療関係者はもとより、我々業界関係者にも便利な機能がそろっていますので、是非ご活用ください。

※システムデータは毎月10日頃に更新しています。

※どこでもジェネリック医薬品が検索でき、効能効果・用法用量の違いや、薬価・差額が確認できるスマートフォンサイトも用意しています。





## 災害時における医療機関等への支援活動



災害が発生し、担当先を含む多くの医療機関等が被災しました。そこで担当先の医療機関等で散乱物の後片付け等、支援活動を行いたいと思うのですが、このような行為は過大な労務提供として規約違反に問われることはないでしょうか。



### 支援活動が規約違反に問われることはありません

災害によって被害を受けた医療機関等、医療担当者等に対する災害復旧のための労務提供は、義援金、見舞金、水等の援助物資と同様、医療用医薬品の取引に付随しないものとして扱うため、規約上の制限を受けません。





## 活動案内

(平成29年8月24日現在)

## 〈日誌〉

8月 1日	総務委員会広報部会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
8月 7日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	〃
8月 8日	倫理委員会	〃
8月 8日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	〃
8月 9日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	〃
8月 21日	信頼性向上プロジェクト(MR教育研修検討チーム)	〃
8月 23日	薬制委員会(幹事会)	〃
8月 24日	流通適正化委員会	新大阪ブリックビル会議室
8月 29日	安全性委員会(幹事会)	メルパルク大坂
8月 30日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	東京八重洲ホール会議室
8月 30日	薬事関連委員連絡会	〃
8月 31日	総務委員会広報部会(幹事会)	メルパルク大阪会議室

## 〈今月の予定〉

9月 1日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 4日	COP委員会正副委員長会議	東京八重洲ホール会議室
9月 5日	臨時常任理事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 5日	総務委員会広報部会ニュース・原稿グループ会議	東京薬事協会会議室
9月 6日	総務委員会広報部会イベント・講演グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 7日	総務委員会総務部会	小林化工(株)清間第二工場会議室
9月 11日	信頼性向上プロジェクト全体会議	ベルサール八重洲会議室
9月 14日	くすり相談委員会	東京八重洲ホール会議室
9月 15日	薬価委員会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 19日	COP委員会	〃
9月 20日	薬制委員会(幹事会)	〃
9月 20日	薬制委員会全体会議	東京八重洲ホール会議室
9月 20日	総務委員会広報部会コミュニケーション広報戦略グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 21日	常任理事会・理事会	〃
9月 21日	安全性委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
9月 22日	知的財産研究委員会	〃
9月 27日	総務委員会広報部会(幹事会)	日本ジェネリック製薬協会会議室
9月 28日	信頼性向上プロジェクト(MR教育研修検討チーム)	〃
9月 29日	薬価委員会(幹事会)	東京八重洲ホール会議室
9月 29日	薬価委員会運営委員会	〃
9月 29日	薬事関連委員連絡会	〃
9月 29日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	〃



## 編集後記

皆さん、ダン・アリエリーという名前を聞いたことがありますか。アリエリーはアメリカで活躍している行動経済学者で、2012年に日本でも出版された「ずる(嘘とごまかしの行動経済学)」という著書で有名です。

それまで、「人の行動は合理的か」という命題に対する回答は、ゲーリー・ベッカーという学者が提唱した「費用便益計算法」という考え方が有名でした。「費用便益計算法」によると、人は「犯罪から得られる便益」と「つかまる確率」そして「つかまった場合に想定される処罰」これらを天秤にかけて行動しているのだ、というものです。この考え方、一定限は納得できるものの、「そうなの?」と疑問を呈したのがアリエリーでした。アリエリーが重視したのは、「不合理な力」と言ってよいようなものが人の行動を決定する重要な要素ではないか、というものです。

そのことを検証するために、アリエリーは様々な実験をおこなっています。その詳細は著書「ずる」を読んでいただくとして、結論だけを言ってしまうと、「私たちの行動は、相反する動機付けによって駆り立てられている。つまり、一つは、ごまかしから利益を得て、自分に満足したいという『金銭的動機』と、もう一つは、自分を正直で立派な人物だと思いたい。鏡に映った自分の姿を見て自分に満足したいという、心理学者が言うところの『自我動機』と呼ぶもの、この二つがある」と言います。だから、アリエリーは「誰もが不正をおこなう(少なくとも「おこなう」可能性がある)」と言います。私たち一人ひとりが絶対的に「罪深く」ならない程度にごまかしをする。そして、自分なりの限界を定めているのだと。

それでは不正、そして不祥事はなくなるのでしょうか。アリエリーはこんな実験をして「不正を減らすこと」ができることを証明しました。それは、イェール大学とMITで行われた実験で、生徒を2群に分け、1群ではテストの前に「私はこの実験が、イェール/MIT 大学倫理規定のもとに行われることを承知しています」という文面に署名をさせ、もう1群では通常通りテストをするというものです。倫理規定に署名をしなかった群に比べ、署名をした群では全くごまかしがなかったとのこと。不正に対する、倫理規定の有効性を示すものです。

実は、この話にはオチがあって、アリエリーが実験を実施した当時、イェールもMITも倫理規定と呼べるものはなかったそうです。このことは、人に自分の倫理基準を思い出させるものを与えれば、ごまかしをしようという意欲と傾向を弱めることを示しています。

多くの企業では「企業行動憲章」と言えるものが定められています。企業活動をするにあたっての、行動規範・倫理規定といったものです。コンプライアンス教育で、しっかりと従業員全員が倫理規定を学習することは、不正の排除、不祥事の撲滅に向けて、意味のあることだというのが、アリエリーの実験からも裏付けられています。

アリエリーの著書「ずる」、皆さんもお手に取ってみませんか。

(Y I)

## ■ 編集

日本ジェネリック製薬協会  
総務委員会広報部会

## ■ 発行

日本ジェネリック製薬協会  
〒103-0023 東京都中央区 日本橋本町 3-3-4 日本橋本町ビル 7F  
TEL: 03-3279-1890 / FAX: 03-3241-2978  
URL: www.jga.gr.jp